



3Dプリンターで出力した直後のフレームがこちら。素材は弾力性に優れたポリアミド11。ここから表面を磨き上げて、さらに塗装を施していく。

これが！

フル3Dプリント眼鏡だ

国産アイウェアも、いよいよフル3Dプリントが活用される時代へ。2022年に誕生した「マサキ マツシマ ディーズリー」が、国内ブランドとしてはほぼ初となるフル3Dプリントによるフレームを発表した。圧倒的な造形を具現化する技術が、眼鏡界にもたらす影響とは…？

写真／青木健格(WPP) 文／小堀真子

マサキマツシマディースリー

Masaki Matsushima D3

連続のテンプルデザイン

1

フィット感も抜群

3

2

MODEL 3

MF3D-102 Col.1

価格5万9400円

ブリッジの立体感が印象的な力強いフロントは、重すぎないナイロール型になっているのがポイント。迫力のあるサイドスリットから硬質なチタン製ヨロイ、テンプルがスムーズに接続され、素材感のコントラストが効いている。

MODEL 2

MF3D-101 Col.2

価格5万9400円

今回のコレクションでは唯一、フレーム全体を3Dプリントで造形した受賞モデル。背骨のようにしなやかに動く立体構造のテンプルが狂巻。鼻当てとモダンにはラバー素材を使用し、モダンにはチタン芯材入りなので調整も可能だ。

MODEL 1

MF3D-103 Col.2

価格5万9400円

シャープな多角形で個性を出したフルリムタイプは、チタン製テンプルとの組み合わせで軽量かつ、日常でも掛けやすいデザインに仕上げている。3Dプリントで出力されたヨロイ部分が柔軟なバネ性によるフィット感をもたらす。

今までにない有機的な感触
いまや様々な造形分野で活用される3Dプリント技術。眼鏡フレームでも主に海外ブランドで少しずつ採用例が増えているが、日本でいち早く技術を取り入れた眼鏡メーカーといえばサンリーブだ。素材となるポリアミド11の高耐久・高弾力といった特性を、ハードな環境で用いられるアウトドア向けの眼鏡ブランドで応用し、ここ数年の市場で確かな手応えを感じていたという同社。そのノウハウの蓄積から2022年に生まれたのが、「マサキ マツシマ D3」だった。形状記憶に優れ、ねじれなどの動きにも強いポリアミド11は眼鏡としての耐久性も信頼できる。テンプルやフロントサイドの連続する精密なパターンは、もちろんネジなどを一切使わない一体成型。従来の切削・プレス技術による造形で具現化したフレームとは全く異なる、有機的でなめらかなフィット感が新しい。記念すべき初コレクションでは、3D出力のフロントとチタンテンプルと組み合わせた2型と、全体をフル3Dプリントで造形した1型がラインナップされた。とくに後者の「MF3D-101」は、日本メガネ大賞2023にてテクロノジー部門グランプリも受賞。小ロット・短期納品を可能とする3Dプリントの技術が、これからの眼鏡に新たな価値をもたらすこととは間違いないだろう。

君はスポーツカーが似合う男になっているか

mono



視界良好めがねの達人

www.monomagazine.com
2023 NO.908
特別定価 750円

モノマガジン特集号

令和5年1月16日発行・発売（毎月2回2日・16日発行・発売）
第42巻第2号・通巻908号 昭和57年11月2日第3種郵便物認可
新製品から時代を読む

2-2
【特集】



眼鏡界のアカデミー賞
と言われるシルモドール
を受賞した日本の眼鏡、
世界一軽眼鏡、流行の
黒縁眼鏡など、売れてい
る眼鏡の秘密を探る。



SPORT-CAR

革サイフ
事始め
革は生き物。エイジング
を経て自分だけの艶や
色合いを帯びた最愛の
革サイフを見つけ出せ。

達人



webもモノマガ!